

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4093000059
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	二日市温泉長寿苑そよ風
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市武蔵1-1-24 (電話) 092-923-4366
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年7月7日

【情報提供票より】(平成21年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 2 階建ての 2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(平成21年5月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二日市愛心会病院、丸山病院、牧病院、立山歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

関東にある法人本部は全国的に介護事業を展開しており、当グループホームはその事業の一つである。当事業所は開設してまだ2年足らずではあるが、先に開設された隣の有料老人ホームと連携を図りながら管理者・計画作成担当者が力を合わせて基礎づくりに取り組んでいる。道路から敷地内の桜並木の坂道を登った所に建物があり、1階は短期入所事業所、2階がグループホームとなっており、地域の人が気軽に立ち寄れる環境ではないが、地域とのつながりに心をくだし、一つひとつ試みている。二日市温泉の温泉が引かれており、毎日温泉に入ることが可能である。利用者と一緒に畑で野菜の栽培をしながら収穫を心待ちにし、また収穫した野菜は食卓に出してみんなで食し、喜びを共有している。利用者の日々の生活や行事、力を発揮した作品等を一人ひとりファイルしており、訪問してきた家族と一緒に見て豊かな会話の材料となっている。グループホームとして望ましい姿に期待する事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点を真摯に捉え、成年後見制度の職員の研修、地域とのふれあい、利用者の個別の外出、同業者との交流、それぞれ改善に向けて取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価・外部評価の意義を理解し、積極的にとりくんでいる。全職員に自己評価項目を渡し、各自が記入したものを管理者・支配人がまとめて作成している。自らのケアの振り返りから改善点をも見出している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3か月に1度、家族・民生委員・区長・市社会福祉協議会・地域包括支援センター・母体の有料老人ホーム事務長・事業所の管理者及び計画作成担当者の参加で開催している。事業所の現状報告、外部評価のアンケートの依頼や報告、ボランティア派遣先等について話し合いがなされている。市には介護保険報酬改定のことを尋ねたり、地域包括支援センターに同業者の見学先相談をしたりしてサービスの質の向上につながるような連携をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の訪問時に生活の様子・健康状態、金銭管理の報告したり、毎月発行している系列4事業所の苑だよりとグループホーム独自の写真入りの季刊発行たよりで家族の不安解消をしている。事業所内相談・苦情窓口を明確にし、その対応の流れをリビングに掲示している。また、事業所外窓口も重要事項説明書に記載説明がされている。家族会を設けているが、参加者が少なく、できるだけ多くの家族に参加してもらえるよう検討され、次回、新企画で実施予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが道路から坂道を登った高台にあり、地域の人が気軽に訪問できるような雰囲気ではない。そのような中にあっても単発的ではあるが、小・中学生やボランティアの受け入れや散歩途中の挨拶など、地域との交流に努力されている。また、地域の夏祭りへの参加や公民館との関わりに挑戦されているが、さまざまな要因があり、努力が実らない部分もある。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、管理者と職員全員で取り組んで事業所独自の理念をつくりあげている。地域密着型サービスであること、認知症ケアを認識した文言になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2階玄関入口に毛筆で理念が掲げられ、入ってきた時、優しく必ず目に入ってくる。ミーティングの中で個人ケアの話し合いの際、自然な形で理念に沿って考え、話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが道路から坂道を登った高台にあり、地域の人が気軽に訪問できるような雰囲気ではない。そのような中にあっても単発的ではあるが、小・中学生やボランティアの受け入れや散歩中の挨拶など、地域との交流に努力されている。また、地域の夏祭りへの参加や公民館との関わりに挑戦されているが、さまざまな要因があり、努力が実らない部分もある。	○	地域とのつきあいでは困難が多々あるが、運営推進会議に多くの関係者の意見や支援を得て、また、同業者との交流や意見交換など活用して工夫されることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義を理解し、積極的にとりにくんでいる。全職員に自己評価項目を渡し、各自が記入したものを管理者・支配人がまとめて作成している。自らのケアの振り返りから改善点をも見出している。前回の改善点も真摯に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度、家族・民生委員・区長・市社会福祉協議会・地域包括支援センター・母体の有料老人ホーム事務長・事業所の管理者及び計画作成担当者の参加で開催している。事業所の現状報告、外部評価のアンケートの依頼や報告、ボランティア派遣先等について話し合いがなされている。	○	運営推進会議は2か月に1度の開催が望まれる。参加者は、家族だけでなく利用者の参加についての検討が望まれる。その他、地域との付き合いに苦慮されているが、地域の老人会・婦人会・公民館に集う人・警察・消防団等多くの人たちを巻き込んでサービス向上に取り組まれることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に介護保険報酬改定のことを尋ねたり、地域包括支援センターに同業者の見学先相談をしたりしてサービスの質の向上につながるような連携をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年度の改善点であったことからまず、職員の研修に組み込み、成年後見制度の外部研修に参加したり、内部研修をしている。また、玄関入口にはパンフレットを置くなどして、家族にも情報提供をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、個別に生活の様子・健康状態、金銭管理の報告をしている。系列の有料老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、グループホームの4つの事業所で毎月発行している苑だよりと、グループホーム独自の写真入りの季刊発行のたよりもだしており、家族はこれらを楽しみにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容に関する事業所内相談・苦情窓口を明確にし、その対応の流れをリビングに掲示している。その他、事業所以外の窓口も重要事項説明書に記載説明がされている。家族会を設け、家族会で話し合いがなされている。家族会の参加者が少ないので、できるだけ多くの家族に参加してもらえよう検討している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回の外部評価以来、異動による影響を考え、異動はしておらず、また、退職者もない。それまでは新しい職員には、利用者一人ひとりの情報を提供し、利用者への影響を最小限に抑えるように対応していた。異動・退職者については、苑だよりで家族に報告をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関して年齢・性別は問わない。現在20歳代から60歳代の職員が勤務している。採用を決定するにあたっては熱意のある人を採用している。また、職員は得意とする分野でその能力を発揮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	昨年7月に人権に関する外部研修を受けている。今年は8月に内部研修の予定である。利用者を人として尊重した丁寧な言葉使いを心がけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は勿論、スキルアップ研修委員会を立ち上げ、月に1回スキルアップ研修を行っている。レベルに応じた研修としては、外部研修に参加させ、報告会とまでもいかないが、研修内容を話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市に同業者の見学先を相談をして、管理者が見学に行き、交流に取り組みされている。現在、全国グループホーム協会加入の検討をしているところである。	○	全国グループホーム協会に加入し、多くの事業所との交流や勉強会等によって、地域密着型サービスの本質的なサービスに向けての更なる取り組みを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所には最初に家族が相談に来られるが、本人にも見学、あるいは1泊から2泊してもらい雰囲気に馴染んでもらうよう工夫して入る。入院中や自宅療養中の人には、馴染めるように事業所から伺い、いきなりの入居とはなっていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事の手順や植え時期を教わったり、季節の花を共に味わったりしている。ぬり絵を丁寧にぬったり、計算ドリルを真剣に取り組む姿勢に感動したり、その姿勢に教えられたりしている。また、自分の問題で悩んでいるとき、利用者から「くよくよせんと」と励ましや力づけがあり、支え支えられる関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴や趣味、要望等の情報を得ると共に、利用者と1対1で散歩時や夜勤のゆっくりとした時間帯に好み等を話題にしながらか傾聴することを心掛けており、思いや意向の把握に努めている。発語の少ない方は、表情や仕草等から思いを汲み取り意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員や他の職員の気づき等の情報提供を受け、本人や家族と話し合っている。3か月ごとに開催される担当者会議の場に家族も参加しており、本人の意向や家族の意見が反映された介護計画の作成に取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの日々の様子が詳細に記録されており、状態の変化を継続的に知ることができる。毎月、現状の把握と評価を行い、3か月ごとに見直しを行っている。状態の変化に応じて本人や家族等と話し合い、現状に即した新たな介護計画の作成に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の見舞いや車いす専用車両による通院介助、馴染みの店での買物同行等、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の協力医療機関はあるが、今までのかかりつけ医の継続利用を優先している。家族による受診対応を基本としているが、困難な場合は職員が同行し受診結果に関する情報を共有している。毎月1回、協力医療機関の往診を受けている。緊急時必要な場合は家族の了解のもと、協力医と連携を図っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時、家族等へ「医療行為がないかぎりみさせていただきます」と口頭で説明をしている。ターミナルケアについて本人及び家族、医療関係者、職員等を交えての検討はこれからの段階である。	○	重度化や終末期介護について本人、家族、医療関係者、職員等を交え、支援方針の検討と共有を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内で接遇マナーや人権教育を行い、誇りやプライバシーを損ねることのないよう対応の徹底を心がけている。記録等の個人情報は鍵つきの所定の場所に管理、保管されており、職員と守秘義務に関する覚書を交わしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが利用者の思いを優先している。食後の過ごし方も、リビングでおしゃべりを楽しんだり、自室で休息したりと、利用者一人ひとりのペースを尊重した対応がみられた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士による献立と、それに合わせた食材が搬入されホームで調理している。そのほかに調査当日は、利用者が育て収穫した「枝豆の塩ゆで」も食卓に上っていた。利用者がおしぼりを、一人ひとりに声かけしながら手渡ししている。職員は介助が必要な利用者の隣に座り、全員で同じ物を一緒に食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉がひかれており、利用者が希望すればいつでも入浴可能であるが一日おきの入浴希望者が大半である。入浴を拒む場合は無理強いをしないが清潔保持の面から、一週間に一回は入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、できそうなことを把握しており、食前のおしほり手渡し、菜園で野菜づくり、折り紙等を使って季節を意識した飾り物づくり等、利用者の気持ちを活かし出番や楽しみを支援している。四季折々の花見や果物狩り、ふるさと館で開かれる展示会等へ出かけ気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の体調に配慮しながら、車や車いすを利用して散歩やドライブ等、心身の活性につながるよう外に出かける機会を設けている。毎月、家族も誘ってレクリエーションをかねて少し遠出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは建物の二階部分に位置しており、玄関は施錠していない。常に職員同士で声をかけあい利用者の様子や所在を確認し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署の協力を得て利用者と共に昼、夜を想定した避難訓練を実施している。隣接する同法人との連携と協力体制が得られており非常用物品も確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取状況が記録されており、全職員は情報を共有している。医療関係者と相談しながら個別に合わせた支援と、栄養士の専門的アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集うリビングを囲むように台所と事務用スペースが配置されており、お互いの所在を確認することができ、安心感のある共用の空間である。季節を意識した手づくりの飾り物や書棚に馴染みの本が置かれている。台所で昼食用の食材をきざむ音が心地良く家庭的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>必要な物を持ち込み、安心して居心地よく過ごせるよう本人と家族と一緒に配置をしている。</p>		